

税からうまれる水道水

板橋第三中学校 9 年

齋 木 真之介

酷暑の夏、冷えた水が格別に美味しい。滴るほどの汗をかきながら運動をしたあとに、蛇口をひねり水を一口。氷があればなお最高。身体に水が浸透し潤される。日本は蛇口の水を直接飲むことができる数少ない国の一つだ。

日本の水道水の素晴らしさは、江戸時代に始まった。その頃の水道は上水と呼ばれ、湧水を水源として使われていた。では、現代の日本の水道はどのようにして私達に潤いを届けてくれているのか。

近代の水道に関しては明治時代に入ってから創設されたい。日本の水道水の優秀さは、島国で自然が豊かということもあるが、浄水技術が優れていることにも起因している。この浄水技術の開発や運営、設備の設置にはすべて、国民の税金が使われている。

二週間ほど前、自宅前で水道管工事が行われており、家の出入りに少々不便を感じたことを思い出した。ちょっと迷惑に感じたが水道管は定期的に交換する必要があるため工事が必要不可欠だ。そしてこの工事にかかる費用は税金から賄われているようだ。そのお金は国庫支出金が使われているらしい。国庫支出金とは、国が使い道を指定して地方公共団体に送るお金である。この国庫支出金は日本国民が支払っている税金によって集められている。また、日本の下水道にかかる経費の半分以上が国庫補助金である。この国庫補助金とは、地方公共団体に財政援助や、特定の施策のための奨励として送る寄付金の事で、このお金も日本国民の税金から支払われている。

日本の誇るべき水道の運営は自分たちが支払っている税金によって支えられているのだ。税金に対してネガティブなイメージは多くの人にある。確かに、私自身商品の金額に八%や十%の消費税を支払いの度に払うのは腹立たしく感じることもある。さらに、最近、仕事の給料は、その額によっては社会保険料と合わせて膨大な額を差し引かれてしまうことを知り、あまり税金にいいイメージを持ってはいなかった。しかし、意識しないと気づかないところに税金は使われている。

例えば、日本では緊急車両を無料で要請することができる。海外では有料が一般的だ。最近ではやみくもに呼ばないよう、有料化の声も上がっているようだが、緊急時に経済的な心配をすることなく要請できるのはありがたい。

私が毎日通う学校、仲間と遊ぶ公園、部活の自主練で使用する体育館、勉強や読書ができる図書館など、周りを見渡せばどれも税金で賄われている公共施設だ。国民から集めた税金を国が運用し、国民の豊かな毎日に還元する。

いつか私が社会に出て働き始めた時、自分が支払う税金に対し、徴収の仕方や運用などを納得できているだろうか。行政や政治家に任せるだけでなく税に興味を持ち、注視できるようこれからも勉強していきたい。